

秋晴れ



11月23日（土）晴天。
今回のオープンラボは、体を使った
体験学習だ。延べ29名が【健康】
および【救命】に関するテーマを体
験した。

オープンラボ新聞

発行人
StudioNoguchi



OPEN LABO.
ショート動画

医療に携わりたい人必見！

12月15日（日）は健康・医療・検査の三本柱

大学の1日の授業数は3つ程度。そして授業時間は90分。OPEN LABO.も1テーマ90分。つまり、12月のOPEN LABO.をすべて受講すると、大学生の生活リズムを体験することができます。医療業界に興味のある君。12月のOPEN LABO.のテーマは医療分野のスペシャリストがおくる健康・医療・検査の三本柱です。これまでの来場者満足度は驚異の93%！満足させる自信がある。医療分野のスペシャリストが君を待っている！

- 10:30- 未来の脳科学者大集合
認知機能測定・脳トレにチャレンジ！
- 13:00- 血液の変化から疾患との関係性を見てみよう
- 15:00- 迅速組織検査で病理標本を作ってみよう

Q&A

脳は鍛えることができますか？
「はい」できます！！！！

近年、開発された「脳体力トレーナー（コグエボ）」や「香りのテスト」等、楽しくゲーム感覚で、脳の体力をチェックします（認知機能の測定）。また、脳トレコーナーでは、脳体力アップに励みます。

脳体力トレーナー（コグエボ）



ニンテスト（香りを当てる）



ニオイを嗅いで、
認知機能の低下を早期発見

1日 OPEN LABO. (ランチ付き) 2024/12/15 (日) 10:30-17:00 先着10名限定企画！ この日のテーマをすべてを体験できる ランチ付き のプログラムです。 はくからみなさまへ 実験漬けの1日のご提案！ 大上哲也、片岡智哉、池田聡	OPEN LABO. 【秋の部】 2024/12/15 (日) 10:30- 未来の脳科学者大集合 認知機能測定・脳トレにチャレンジ！ 大上哲也	OPEN LABO. 【秋の部】 2024/12/15 (日) 13:00- 血流の変化から疾患との関係性を見てみよう 片岡智哉	OPEN LABO. 【秋の部】 2024/12/15 (日) 15:00- 迅速組織検査で病理標本を作ってみよう 池田聡
---	---	---	--

1日 OPEN LABO. (ランチ付き) 2025/1/26 (日) 10:30-17:00 先着10名限定企画！ この日のテーマをすべてを体験できる ランチ付き のプログラムです。 はくからみなさまへ 実験漬けの1日のご提案！ 野口拓也、池上喜久夫、竹澤俊明	OPEN LABO. 【秋の部】 2025/1/26 (日) 10:30- モノづくりチャレンジ2 あの果物のおいしさを味わおう！ 野口拓也	OPEN LABO. 【秋の部】 2025/1/26 (日) 13:00- ミクロの世界へようこそ 〜細胞診体験〜 池上喜久夫	OPEN LABO. 【秋の部】 2025/1/26 (日) 15:00- 栄養素やクスの体の内通りを顕微鏡で覗いてみよう！ 竹澤俊明
--	--	---	--

1日ラボ

健康

医療

検査

1日ラボ

化学

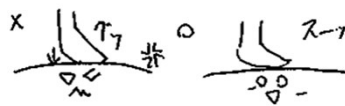
検査

生物

カラダは科学

「どうしたら、速く走れるのか。なぜ、膝が痛くなる（ケガするの）か。よく相談を受けます。それは正しく走っていないから。今日は正しい走り方を科学的にかつ生物学・物理学的な視点から解説し、理想的な歩き方・走り方に変えて見せます。」研究者かつ臨床家である講師の田井中教授は参加者に語る。

今回の講座内容は詳しく触れることはできない。しかし、来場者アンケートの一部を抜粋することで、オープンラボ新聞の読者にこのメソッドをお伝えする。



来場者の声 あふれる続編希望

▽○○の使い方を変えるだけで、走り方、歩き方が変わることがわかった。▽痛いところを治してくれてありがとうございました。▽どこに力を入れたらいいのか、疑問を感じていたので、今の私にダイレクトなオープンラボでした。▽教えてもらったことを実践して、もっと足を速くしたい。▽バレーボール選手のふくらはぎが細い理由がわかってめっちゃ納得しました。▽走り方って動作ひとつでパフォーマンスが上がってキレイに走れるんだなって思った。▽走るとき、○○の○を○○にするだけで、足のアーチや踵の痛みがなくなって驚きました。▽歩き方、走り方という単純なことにも関わらず、科学的根拠をもとにした目からうろこの話がおもしろく、しかも体現できていたことで、納得することができて満足しました（保護者）。

（○○は参加して頂いた皆さんとの秘密とさせていただきます。田井中）



役割を与え チームになる

「通報してから救急車の到着時間は平均で10分。心肺停止してから3分経過すると救命率は大きく下がります。今回の内容は、心肺停止状態から救急車が来るまでにすべきことを実践していきます。」現場経験のある飯田助教は参加者に語った。

参加者を2つのチームに分け、意識の確認、119番通報、AED確保、胸部圧迫、AED除細動を行った。「ひとりでこれらすべては出来ません。通報も通行人の目を見て指をさして『あなた119番通報おねがいします』のように明確に役割を与えることが重要です。胸部圧迫を交代するときも分かりやすく声掛けをしてチームとして動きましょう。」指導にも熱が入る。

その後、本学が管理する救急車に試乗し、救急車内の設備や動く車内を体験した。



参加者の声

▽大切な人の心臓が止まってしまった時に冷静に対応できるように今回のことを覚えていようと思いました。▽救急車の中が意外とゆれて、その中で処置ができる救急隊員はすごいと思った。▽いざというときはいつ訪れるかわかりません！多くの人が体験できるといいですね（保護者）。

